

都城地区小・中・高生意見発表会

意見発表大会表彰



仲間との絆

郡城市立五十市中学校

三年 長倉 由依

「この仲間と勝ちたい」

この気持ちをもつて部活を続けた三年間は本当に幸せな毎日だった。

中学校に入學して部活動を決めるとき、体の小さい私は体育で有利不利がほとんどない卓球という競技に惹かれ、経験はなかったものの卓球部に入部した。一年生の時はハードな筋トレばかりで大変な思いをしたが、きつい練習だからこそ、苦しい時には同級生でお互い励まし合いながら乗り越えていった。苦しい時間をもともに乗り越えたから、信頼関係を築くことができた。二年生の時には卓球の腕も上達し、いつしか卓球がますます好きになっていった。できる技もどんどん増え、練習も夢中になって取り組んだ。その頃には同級生達との絆も深まり、切磋琢磨し合える関係になっていた。二年生ながら先輩方にとって最後の中学生には私は団体メンバーとして出場した。目の前で繰り広げられた

ドラマのような逆転劇で先輩方は見事に地区大会優勝を勝ち取ったのだ。最高の笑顔で喜んでいる先輩方を見て、「私たちも地区大会で優勝したい」と思えるようになった。

三年生が引退し、いよいよ私達がチームの主体となる番がやってきた。新体制になって初めてのミーティングの日、私はキャプテンに立候補した。そこで勇気のある決断だったが、地区大会で優勝するという目標を私がキャプテンになって達成したいという気持ちがあった。私は「この日の日記に、これからどんな部活動人生、キャプテン人生が待っているのだろうか」ときつと私のことだから全部うまくいくことはないだろうな、でもどんな環境に当たったとしても、挑戦し続ける」と書いていた。

秋の地区大会では優勝を目指しながらかも、団体戦三位に終わった。さらに九州大会の予選では今まで負けたことのない相手にも負け、本当に悔しい思いをした。キャプテンとしての反省点ももちろんあったが、下を向いている暇もなくミーティングで、「悔しいままでは終わったら、最後の夏の大会で絶対に勝てないよ。本気でしない」と今のままじゃ勝てない」と言ったことを覚えている。その日からチーム全員で中体連までの目標くりかえしを作ったり、毎日ホワイトボードにその日の目標を書いたりした。その甲斐もあり、徐々にチームとしての意識が高まって

いった。お互いに弱点など見つけ合い、ただただがむしやらのに優勝を目指して練習に励んだ。

いよいよ最後の地区大会。団体戦は絶対的のリーグ戦で行われた。いきなり強敵の相手に負けてしまい、心が折れそうになった。しかしみんなが声を掛け合いながら気持ちを切り替えた。応援してくれている仲間の存在が心強く感じ、私も無我夢中に戦った。これが今まで作ってきた仲間との強い絆だと私は確信した。今なら自信をもって言える。私たちは個人の力では敵わない相手であっても、仲間と作り上げてきたチームワークがあれば必ず勝てる。私たちが、見事に地区大会を優勝することができた。あの日の喜びは夢のようにで最高に嬉しかった。県大会、九州大会を目指していた最中、私はコロナウイルスに感染し、県大会出場が叶わなくなった。一日でも長くこの仲間と一緒に卓球がしたいという気持ちでいっぱいだった。しかし今私が落ち込んでしまうのではないと気持ちを切り替えた。監督メッセージがあったり、アドバイスをしたり、キャプテンとして今の自分にできることを精一杯行なった。私のチームは見事に大会で三位になり、仲間の一生懸命な姿にたくさん感動させてもらった。私は部活動を辞して多くのことを学んだ。卓球したくてもできない時期には、今までのあたりまえがどれだけ幸せなことだったのかを改めて気づかされた。そ

して夢に向かって努力することの大切さを教えてくれて、苦しい時だって仲間がいたから頑張ることができた。私はこのチームのキャプテンで本当に良かったと心から思える。卓球部で過ごした三年間は私にとって、最高の宝物だ。最後に仲間へ、本当にありがとう。



仲間と作り上げてきたチームワークがあれば必ず勝てる。私たちが、見事に地区大会を優勝することができた。